

働き方改革に関する実態調査の集計結果の概要は以下のとおりである。結果の詳細は「板橋区立学校における教職員の働き方改革に関する実態調査 調査結果報告書」に記載している。

Q1. 休憩時間の平均的な取得状況を教えてください。（学校の休憩時間は45分）



・0分 48% ・1～9分 13% ・10～19分 13%
・20～29分 8% ・30～39分 6% ・45分 11%

詳細はP8へ

Q2. あなたは現在、業務に多忙感を感じていますか？



・非常に感じている 31%
・多少感じている 39%

詳細はP9へ

Q3. 仕事を自宅に持ち帰って業務を行うことはありますか？



・毎日ある 8% ・よくある 20%
・たまにある 29%

詳細はP11へ

Q4. 疲労の蓄積状況について教えてください。



・大いに疲労が蓄積している 27%
・多少疲労が蓄積している 48%

詳細はP13へ

Q5. あなたは自身の業務にやりがいを感じていますか？



・大いに感じている 33%
・どちらかと言えば感じている 46%

詳細はP15へ

Q6. あなたは働き方改革に意識的に取り組んでいると感じますか？



・大いに取り組んでいる 11%
・どちらかと言えば取り組んでいる 37%

詳細はP17へ

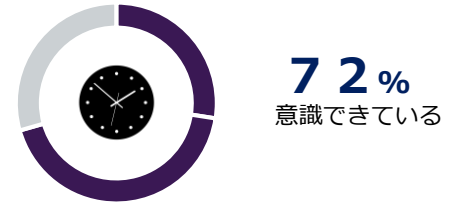
Q7. あなたが勤務する学校は働き方改革に意識的に取り組んでいると感じますか？



・大いに取り組んでいる 10%
・どちらかと言えば取り組んでいる 40%

詳細はP18へ

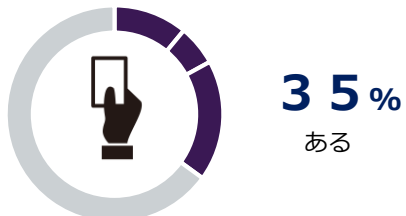
Q8. あなたは勤務時間を意識した働き方ができていますか？



・大いに意識できている 28%
・どちらかと言えば意識できている 44%

詳細はP19へ

Q9. ICカードの出退勤のタッチ前後に30分以上の業務を行うことがありますか？



・毎日ある 11% ・よくある 6%
・たまにある 18%

詳細はP20へ

Q10. 働き方改革をさらに進めるために必要な取組は何ですか？

1位	人的支援	72%
2位	事務の削減	61%
3位	行事等の見直し	37%
4位	部活動支援	32%
5位	学校完全休校日拡充	23%

詳細はP21へ

Q11. 働き方改革の障壁となっている課題は何ですか？

1位	人員が足りていない	56%
2位	時間的余裕がない	44%
3位	ノウハウがない	33%
4位	学校の意識不足	26%
5位	個人の意識不足	24%

詳細はP22へ

Q12. スクール・サポート・スタッフは業務負担の軽減に効果がありましたか？



・大いに効果があった 46%
・どちらかと言えば効果があった 38%

詳細はP24へ

2 クロス集計分析の概要

(1) クロス集計分析の方法

クロス集計分析は、下表の「指標とした設問」から得られた回答を、「やりがい度」「働き方改革への意識度」「勤務時間への意識度」「疲労の少なさ」「多忙感の少なさ」「時間外労働の少なさ」としてスコア化し、得られたスコアから算出した偏差値を、職種別・年齢別・回答群別の集団に分類し各類型ごとにレーダーチャートで表示し分析を行っている。なお各チャートの点線は平均値（偏差値50）を示している。

チャート項目	指標とした設問
I やりがい度	① あなたは自身の業務にやりがいを感じていますか
II 働き方改革への意識度	② あなたは働き方改革に意識的に取り組んでいると思いますか
III 勤務時間の意識度	③ あなたは勤務時間を意識して勤務することができますか
IV 疲労の少なさ	④ 休憩時間の平均的な取得状況 ⑤ 現在の自身の疲労の蓄積状況
V 多忙感の少なさ	⑥ あなたは現在、業務に「多忙感」を感じていますか
VI 時間外労働の少なさ	⑦ 月当たり時間外在校等時間（3か月平均）

比較を行う集団の類型

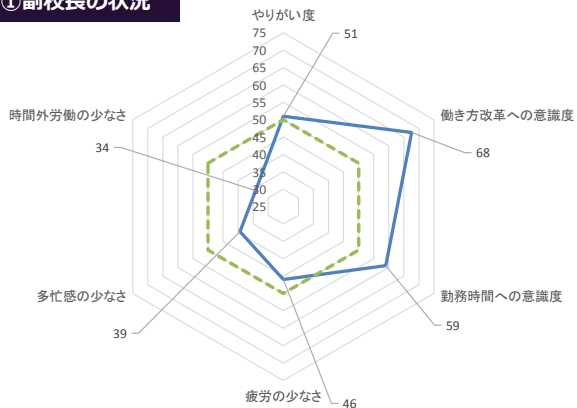
職種別：校長、副校長、主幹教諭、主任教諭、教諭、事務

年代別：20代、30代、40代、50代

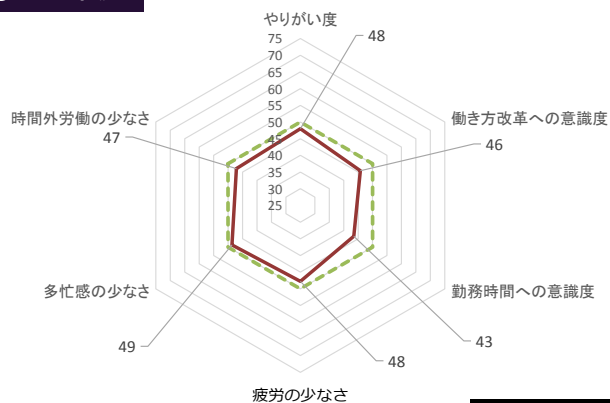
回答群別：個人の働き方改革への取組の意識、勤務する学校の働き方改革への意識、やりがい、勤務時間の状況

(2) 職種別分析の概要

① 副校長の状況



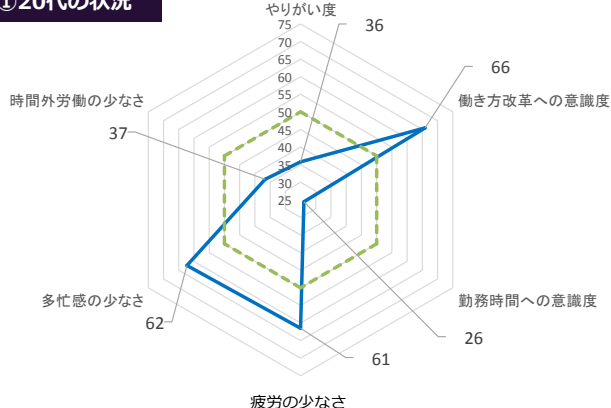
② 教諭の状況



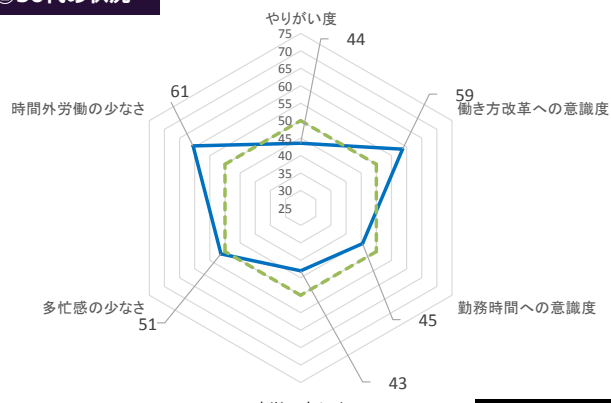
詳細はP34へ

(3) 年代別分析の概要

① 20代の状況



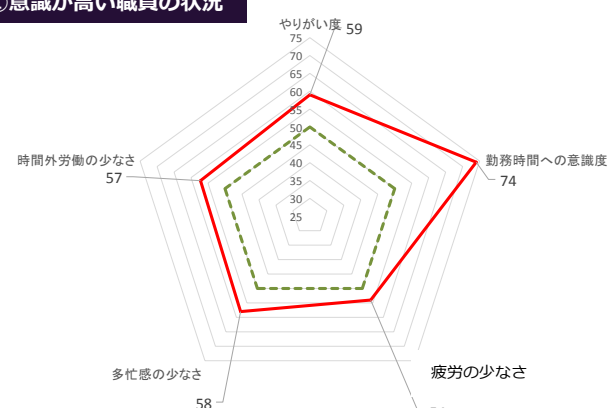
② 50代の状況



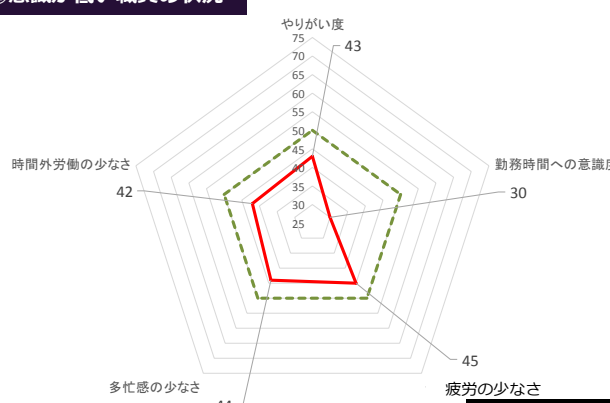
詳細はP37へ

(4) 働き方改革の取組意識が与える影響の分析の概要

① 意識が高い職員の状況



② 意識が低い職員の状況



詳細はP40へ